

*前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、食料・飲料卸売業が大きく悪化傾向を強め、機械器具卸売業、建築材料卸売業、その他卸売業でも悪化傾向を強めました。一方、農畜産物・水産物卸売業は大きく悪化傾向を弱め、紙・紙製品卸売業は横ばいとなりましたが、全体としては-73と前期に比べ3ポイント悪化傾向が強まりました。売上額は2ポイント、収益は10ポイント減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は横ばい、仕入価格は2ポイント下降傾向を弱めました。在庫は2ポイント過剰感を弱め、資金繰りは14ポイント窮屈感を強めました。残業時間は9ポイント減少傾向を弱め、人手は11ポイント過剰感を弱めました。設備の状況は4ポイント不足感が強まり、設備投資の実施は車両などで16%と前期に比べ5ポイント減少しました。

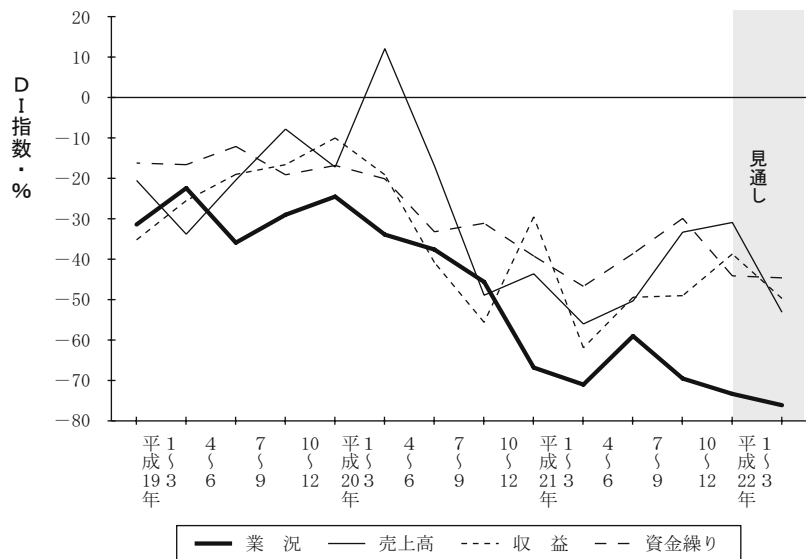
来期の見通し

業況は、農畜産物・水産物卸売業、機械器具卸売業、その他卸売業で悪化傾向を強めるとみています。一方、食料・飲料卸売業、建築材料卸売業は悪化傾向が弱まり、紙・紙製品卸売業は横ばいで推移するとみていますが、全体的には-76と今期に続き3ポイント悪化傾向が強まりそうです。売上額は22ポイント、収益は11ポイント減少傾向を強めそうです。価格面では、販売価格、仕入価格はともに上昇傾向に転じるとみています。在庫は3ポイント過剰感が弱まりそうです。資金繰りは1ポイントわずかに窮屈感が強まるとみています。残業時間はほぼ適正となり、人手は11ポイント過剰感が弱まりそうです。設備の状況は2ポイント不足感が弱まりそうです。設備投資については車両で4%の先が実施予定とし、今期に比べて12ポイント減少するとみています。

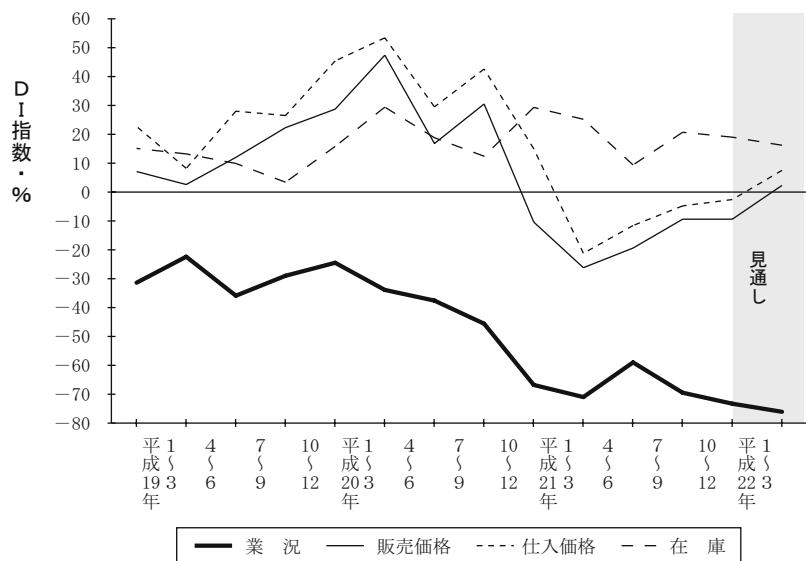
調査員のコメント

- 市場における野菜の販売価格の下落により売上が減少している。更なる経費節減が必要である。
(野菜・果物卸売業)
- 主販売先への売上減少しており、売上及び利益確保のため、一般飲食店等への販路拡大に向けた営業展開が必要である。
(酒類・清涼飲料卸売業)

景況の推移

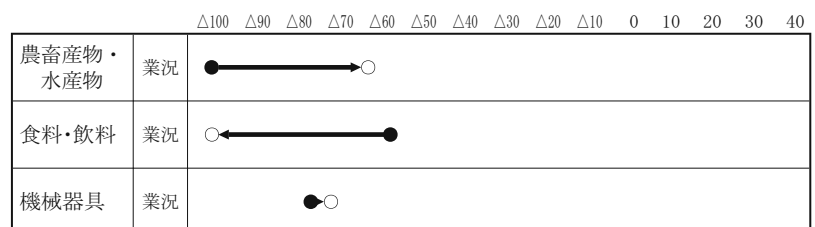


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期 21年10月～12月) / 前期 21年7月～9月)



経営上の課題点	1位	20社 (80%)
	2位	13社 (52%)
	3位	12社 (48%)

当面の重点経営施策	1位	21社 (84%)
	2位	16社 (64%)
	3位	10社 (40%)

*()は前回順位 *対象企業総数は25社